

岡島冠山著『唐話纂要』の 「常言」訳文に関する一考察 — 和訓との乖離を中心として —

高橋 強
耿 蘭

目次

はじめに

1. 「常言」の出典再考
2. 「常言」の順番配列についての検討
3. 「常言」訳文の分析
 - 3.1 和訓とほぼ同じ
 - 3.2 和訓の一部の言葉を俗語に変える
 - 3.3 和訓に俗語で加訳する
 - 3.4 和訓を全体的に言い変える
 - 3.5 本質を強調する
 - 3.5.1 俚俗な訳+本質
 - 3.5.2 本質のみ
4. 出典作品ごとの和訓と訳文についての分析
5. むすびに

はじめに

『唐話纂要』は1716年に長崎唐通事出身の岡島冠山（1674-1728）によって編まれた日本で最初の唐話学習書である。筆者は「創大中国論集（22）」（2019.3）に『唐話纂要』「常言」142箇条の出典と受容した教訓について考察しその結果を発表した。その際に「常言」の和訓と訳文との間に表現上の乖離が見られるものが少なくないことに気付いたが、それが何を意味するものであるかは今後の課題とした。

本論は上記の課題を解明する為に、まず『唐話纂要』の「常言」の出典について、以前の研究の基礎の上に、さらに詳しく調べて考察し、出典に関する結果を更新する。「常言」142箇条は、それぞれ原本、和訓、唐音、訳文を表記しているが、本論は次にこの中の訳文に注目して考察する。その際に岡島冠山が「常言」の訳文を付する上で、如何に表現上の工夫を凝らし、そして他の言葉でどのようにそれぞれの条目の本質を述べようとしたのかについて特に注目し解明する。それから更に、主な出典作品の和訓と訳文についても分析をおこなう。

1. 「常言」の出典再考

以前の研究で、「常言」の出典は主に『明心宝鑑』、『水滸伝』、『西遊記』、『三国志』、「三言二拍」であることが判明したが、それぞれの出典の条目数は不備があり、今回もう一度考察してその結果を下記の表にまとめ、更新した。

表一 常言出典一覧表

(※●は複数の作品に出典し、○は該当作品のみの出典である)

原文	明心宝鑑	水滸伝	西遊記	三国志	三言三拍	その他	出典
1 平常不作虧心事、半夜敲門不喫驚	●				●		①明心宝鑑 ②醒世恒言 ③諭世明言 ④二刻拍案驚奇
2 欲要生富貴須下死工夫		●	●		●		①西遊記 ②増広賢文 ③白兔記 ④水滸伝 ⑤古今小説⑥諭世明言
3 把官路當人情		○					水滸伝
4 借花供佛					○		①殺狗勸夫 ②過去現在因果經 ③初刻拍案驚奇 ④警世通言 ⑤醒世恒言
5 家醜不可外揚			●		●		①五灯会元 ②醒世恒言 ③二刻拍案驚奇 ④西遊記 ⑤警世通言 ⑥初刻拍案驚奇
6 猫頭上子魚						○	—
7 只有錦上添花那得雪中送炭					○		①平妖伝 ②初刻拍案驚奇
8 蝦蟆在天井裡想天鵝肉喫	●				●		①平妖伝 ②儒林外史 ③水滸伝 ④醒世恒言
9 水中捞月			●		●		①沁園春 ②西遊記 ③初刻拍案驚奇
10 比上不足比下有餘					○		①太一生水 ②三輔決録 ③鷓鴣賦 ④醒世恒言
11 三人出外・小的兒苦			○				①蝴蝶夢 ②西遊記
12 行路防跌喫飯防噎		○					水滸伝

13寧可信其有不可信其無					○	①盆兒鬼 ②增廣賢文 ③封神演義 ④警世通言 ⑤初刻拍案驚奇
14好事不如無	○					①明心寶鑑 ②金剛隨機無盡頌·淨心行善分
15好事不出門·惡事傳千里		●	●		●	①景德傳燈錄 ②水滸傳 ③西遊記 ④醒世恒言 ⑤喻世明言 ⑥警世通言
16走三家不如坐一家			○			西遊記
17過則勿憚改					○	論語·学而
18好漢惜好漢猩猩惜猩猩		○				水滸傳
19物悲其類		●	●	●	●	①敦煌變文集·燕子賦 ②三國志 ③水滸傳 ④西遊記 ⑤警世通言 ⑥醒世恒言
20兔死狐悲		●	●	●	●	①敦煌變文集·燕子賦 ②宋史·李全傳 ③廉嗣通 ④三國志 ⑤水滸傳 ⑥西遊記 ⑦警世通言 ⑧醒世恒言
21一不做二不休		●	●		●	①奉天錄 ②三俠五義 ③水滸傳 ④西遊記 ⑤醒世恒言 ⑥喻世明言 ⑦初刻拍案驚奇 ⑧二刻拍案驚奇

22單絲難線孤掌不鳴		●	●	●	●	①三国志 ②東周列国志 ③西遊記 ④水滸伝 ⑤醒世姻缘伝 ⑥喻世明言 ⑦醒世恒言
23如漆似膠		●			●	①史記・魯仲連鄒陽列伝 ②水滸伝 ③喻世明言 ④警世通言 ⑤醒世恒言 ⑥初刻拍案驚奇 ⑦二刻拍案驚奇
24如魚似水		●		●	●	①警世通言 ②喻世明言 ③東周列国志 ④三国志 ⑤水滸伝 ⑥醒世恒言 ⑦初刻拍案驚奇 ⑧二刻拍案驚奇
25虎不食伏肉		○				水滸伝
26虎不生狗				○		三国志
27不怕官只怕管		●			●	①水滸伝 ②醒世恒言
28官無三日禁					○	①古今小説・臨安里錢婆留髮記 (喻世明言の初刻本) ②喻世明言 ③説唐三伝 ④醒世恒言 ⑤二刻拍案驚奇
29官不容針。私通車馬					○	①偈六十三首其一 ②五灯会元 ③警世通言
30有錢可以通神		●			●	①幽閑鼓吹 ②鴛鴦被 ③水滸伝 ④初刻拍案驚奇
31公人見錢如蒼蠅見血		●			●	①水滸伝 ②醒世恒言 ③二刻拍案驚奇

32遠親不如近鄰	●	●				①明心宝鑑 ②水滸伝 ③東堂老
33送君千里終須一別		○				①馬陵道 ②水滸伝
34一日拜師終身為父			○			①太公家教 ②西遊記
35殺人須要見血		●			●	①続伝灯録 ②水滸伝 ③醒世恒言
36見讐人分外眼明		●			●	①神奴兒 ②水滸伝 ③二刻拍案驚奇
37家貧不是貧路貧愁殺人				○		①大川普濟禪師語録 ②張協狀元 ③古尊宿語録 ④五灯会元 ⑤儒林外史 ⑥西遊記 ⑦隋唐演義
38人不可貌相海水不可斗量	●		●		●	①明心宝鑑 ②西遊記 ③初刻拍案驚奇 ④醒世恒言
39二虎相聞必傷其一				○		①戦国策 ②史記 ③三国志 ④斬鬼伝
40寡不可敵衆		●	●	●	●	①孟子・梁惠王上 ②韓非子・難三 ③申宗人冤獄書 ④水滸伝 ⑤三国志 ⑥東周列国志 ⑦警世通言 ⑧説唐 ⑨西遊記 ⑩醒世恒言 ⑪喻世明言
41養將千日用將一朝		●	●	●		①秦并六国平話 ②滄池会 ③三国志 ④水滸伝 ⑤西遊記

42良將擇主而仕，良鳥擇樹而棲				●	●	①左伝 ②三国志 ③醒世恒言
43三十六計走為上計		○				①南齊書・王敬則伝 ②水滸伝
44作善降之百祥作不善降之百殃	○					明心宝鑑
45男大須婚女大須嫁	●	●		●	●	①明心宝鑑 ②水滸伝 ③三国志 ④喻世明言
46有緣千里易相逢無緣對面難相見			●		●	①張協状元 ②水滸伝 ③二刻拍案驚奇 ④警世通言 ⑤喻世明言 ⑥初刻拍案驚奇
47賊走閉門						○ 景德伝灯録
48花無百日紅人無千日好	●	●			●	①明心宝鑑 ②水滸伝 ③警世通言 ④醒世恒言
49以酒勸人原無惡意		○				①单刀会 ②風光好 ③水滸伝
50一日不見莫作舊時看						○ 五灯会元
51好事大家知						○ 偈頌一百四十一首
52富者冤之叢						○ 初刻拍案驚奇
53大丈夫一言駟馬難追				●	●	①論語・顔淵 ②鄧析子・軫辭 ③新五代史・高祖皇后李氏伝 ④伍員吹簫 ⑤西遊記 ⑥醒世恒言 ⑦二刻拍案驚奇
54積善之家必有餘慶	●				●	①明心宝鑑 ②初刻拍案驚奇
55積不善之家必有餘殃	●				●	①明心宝鑑 ②初刻拍案驚奇
56画虎画皮難画骨知人知面不知心	●	●			●	①明心宝鑑 ②水滸伝 ③喻世明言
57人非義不交物非義不取	○					明心宝鑑

58謀事在身成事在天	●			●		①明心寶鑑 ②三國志
59大富在天小富在勤	○					明心寶鑑
60人間私語天聞若雷暗室虧心·神目如電	●				●	①明心寶鑑 ②喻世明言
61種瓜得瓜種豆得豆	●				●	①明心寶鑑 ②醒世恒言 ③喻世明言
62人可欺天不可欺	○					明心寶鑑
63人可瞞天不可瞞	○					明心寶鑑
64萬事不由人計較都是命安排	●				●	①明心寶鑑 ②醒世恒言
65臨財無苟得臨難無苟免	○					明心寶鑑
66駕馬自受鞭策愚人終受毀唾	○					①明心寶鑑 ②直言訣
67恩義廣施人生何處不相逢 冤莫結路逢險處難迴避	●				●	①明心寶鑑 ②喻世明言
68養子方知父母恩立身方知人辛苦	○					明心寶鑑
69善事雖貪惡事莫樂	○					明心寶鑑
70善以自益惡以自損	○					明心寶鑑
71與人方便就是自家方便	●		●		●	①明心寶鑑 ②西遊記 ③二刻拍案驚奇
72見善如渴聞惡如蠱	○					明心寶鑑
73畫餅不充餓			●		●	①滿庭芳·清淨家風 ②打馬賦 ③警世通言 ④水滸傳 ⑤初刻拍案驚奇
74若要有前程莫作沒前程	●		●			①西遊記 ②明心寶鑑
75於我善者我亦善之於我惡者我亦惡之	○					明心寶鑑
76仁慈者壽凶暴者亡	○					明心寶鑑
77為子孫作富貴計者十敗其九 為人行善方便者其後受惠	○					明心寶鑑
78禍福無門惟人自招	●	●			●	①明心寶鑑 ②水滸傳 ③醒世恒言
79行善之人如春園之艸不見其長日有所增 行惡之人如磨刀之石不見其損日有所虧	○					①明心寶鑑 ②東岳大帝寶訓

80不教而善非聖而何教而後善 非賢而何教而不善非愚而何	●	●				①明心宝鑑 ②西遊記
81寡言則省謗 寡慾則保身	○					明心宝鑑
82貪心害己・利口傷身	○					明心宝鑑
83慾多傷身財多累身	○					明心宝鑑
84酒中不語真君子財上分明大 丈夫	○					明心宝鑑
85成人不自在自在不成人	●	●				①明心宝鑑 ②水滸伝
86自見者不明・自是者不彰	○					明心宝鑑
87含血噴人先污自口	○					①明心宝鑑 ②罗湖野録
88良農不為水旱不耕良賈不為 折闕不市	○					明心宝鑑
89一行有失百行俱傾	○					①明心宝鑑 ②少年進徳録
90借人典籍皆須愛護凡有决壞 就即補治	○					①明心宝鑑 ②顔氏家訓
91知足可樂彘貪則憂	○					明心宝鑑
92若要做快活必須大事化小事 小事化沒事	○					明心宝鑑
93柔弱護身之本剛強惹禍之由	○					明心宝鑑
94各人自掃門前雪休管他人屋 上霜	●			●		①明心宝鑑 ②警世通言
95推賢學能面無慙色	○					明心宝鑑
96長短ハ家家有炎涼處處同	○					①明心宝鑑 ②不明
97至樂莫如讀書至要莫如教子	○					明心宝鑑
98不登山不知天之高也不臨谿 不知地之厚也	○					明心宝鑑
99飽煖思淫慾饑寒起盜心	○					明心宝鑑
100長思貧難危困自然不驕每 思疾病煎煎並無愁悶	○					明心宝鑑
101好食色貨利者氣必吝・好 功名事業者氣必驕	○					明心宝鑑
102賢人多財損其志・愚人多 財益其愚	○					明心宝鑑
103人貧智短 福至心靈	○					明心宝鑑
104平生不作皺眉事天下應無 切齒人	●			●		①明心宝鑑 ②警世通言
105有福莫享盡 福盡身貧窮 有勢莫使盡勢盡冤相逢	○					明心宝鑑

106凡事無難學只怕無心學			●		●	①事林廣記 ②西遊記 ③初刻拍案驚奇
107黃金千兩未為貴 得人一語勝千金	○					明心寶鑑
108小舩不堪重載深徑不宜獨行	○					明心寶鑑
109利可共而不可獨 謀可獨而不可衆 獨利則敗 衆謀則泄	○					①明心寶鑑 ②省心錄
110在家不會迎賓客出外方知少主人	○					明心寶鑑
111貧居鬧市無人識富在深山有遠親	○					明心寶鑑
112寧塞無底坑難塞鼻下橫	○					明心寶鑑
113天不生無祿之人地不生無根之艸	●				●	①明心寶鑑 ②醒世恒言 ③初刻拍案驚奇
114成家之兒惜糞如金敗家之子用金如糞	○					明心寶鑑
115趕人不要趕上捉賊不如趕賊	○					明心寶鑑
116豪家未必長富貴貧家未必常寂寞	○					明心寶鑑
117遠非道之財戒過度之酒	○					明心寶鑑
118心行慈善何須努力看經意欲損人空讀如來一藏	●		●			①明心寶鑑 ②西遊記
119居必擇鄰交必擇友	○					①明心寶鑑 ②晏子春秋·雜上 ③歡喜冤家
120骨肉貧者莫疎他人富者莫厚	○					明心寶鑑
121身披一縷常思織女之勞日食三澆每念農夫之苦	○					①明心寶鑑 ②唐太宗百字箴言
122水至清則無魚人至察則無徒	○					明心寶鑑
123家貧顯孝子世亂識忠臣	○					明心寶鑑
124輕諾者信必寡面譽者背必非	○					明心寶鑑
125春雨如膏行人惡其泥濘秋月揚輝盜者憎其照鑑	○					明心寶鑑
126凡大丈夫重名節於泰山輕死生於鴻毛	○					①明心寶鑑 ②省心錄 ③省心雜言

127不恨自家麻繩短只怨他家古井淡	○						明心宝鑑
128經目之事猶恐未真 背後之言豈足淡信	●	●					①明心宝鑑 ②水滸伝
129天有不測之風人有不測之禍	●	●	●			●	①明心宝鑑 ②合同文字 ③水滸伝 ④西遊記 ⑤喻世明言 ⑥初刻拍案驚奇 ⑦二刻拍案驚奇
130方今之人惡死凶而樂不仁是猶惡醉而強酒						○	孟子
131酒不醉人人自醉色不迷人自迷	●	●				●	①明心宝鑑 ②水滸伝 ③警世通言 ④初刻拍案驚奇
132國之將興實在諫臣 家之將榮必有諍子	○						明心宝鑑
133遠水難救近火遠親不如近鄰	○						明心宝鑑
134白玉投於淤泥不能汚濕其色君子行於濁地不能染亂其心	○						明心宝鑑
135清貧常樂濁富多憂	○						明心宝鑑
136無故而得千金不有大福必有大禍	○						明心宝鑑
137德微而位尊智小而謀大無禍者鮮矣	○						明心宝鑑
138金玉者飢不可食寒不可衣自古以穀帛為貴也	○						明心宝鑑
139貧窮患難親戚相救婚姻死喪隣保相助	○						①明心宝鑑 ②增廣賢文
140癡人畏婦賢女敬夫	○						明心宝鑑
141婚娶而論財夷虜之道也	○						明心宝鑑
142兄弟為手足夫婦如衣服衣服破時更得新手足斷時難在續	●					●	①明心宝鑑 ②三国志
合計	93	34	22	12	47	6	

以前の研究で明らかになったことは、一つは第54条以降は3箇条を除いてすべて『明心宝鑑』からの出典で、二つ目は第1条から第53条までは『明心宝鑑』以外に数多くの「白話小説」を中心とした書籍から出典してい

ることである。

今回の結果はその上で、さらに明白になったことがある。一つは、142箇条で構成される「常言」の出典の内、136箇条が『明心宝鑑』、『水滸伝』、『西遊記』、『三国志』、「三言二拍」からの出典で、残りの6箇条の一つ「6猫頭上于魚」は大島(2017)が不明であると判定した。そのほかの5箇条はそれぞれ『論語・学而』、『景德伝灯録』、『五灯会元』、『偈頌一百四十一首』、『孟子』からの出典で、これも大きく二つに分けることができる。一つは古典聖書で、『論語・学而』と『孟子』がこの中に入る。もう一つは仏教、禅宗関連の書籍で、『景德伝灯録』、『五灯会元』、『偈頌一百四十一首』がこの中に入る。『明心宝鑑』は儒釈道一体と言われているが、これらの出典からもそれがよく反映されている。

また、作品の出典状況をまとめてみると、以下ようになる。『明心宝鑑』からの出典は93箇条で、うち『明心宝鑑』のみの出典は67箇条で、ほかの作品と重なって出典しているのが26箇条ある。『水滸伝』からの出典は34箇条で、うち『水滸伝』のみの出典が7箇条で、ほかの作品と重なって出典しているのが27箇条ある。『西遊記』からの出典は22条で、うち『西遊記』のみの出典が4箇条で、ほかの作品と重なって出典しているのが18箇条ある。『三国志』からの出典は12箇条で、うち『三国志』のみの出典が2箇条で、ほかの作品と重なって出典しているのが10箇条ある。「三言二拍」からの出典は47箇条で、うち「三言二拍」のみの出典が7箇条で、ほかの作品と重なって出典しているのが40箇条ある。

すなわち、142箇条の常言のなかで、上記の作品のみの出典条目数は93箇条あり、ほかの49箇条は『明心宝鑑』、『水滸伝』、『西遊記』、『三国志』、「三言二拍」のなかの二つから四つまでの複数の作品から出典している。特に第19条の物悲其類、第20条の兎死狐悲、第22条の單絲難線孤掌不鳴、第40条の寡不可敵衆、第45条の男大須婚女大須嫁、第129条の天有不測之風人有不

測之禍の6箇条は上記作品の五つのうち四つも出典が重なっており、相当使用頻度が高いということが言える。

2. 「常言」の順番配列についての検討

「常言」の出現順に関しては、岡島冠山が様々な観点から学習者に配慮して、学習を順調に進めさせていることが考えられる。たとえば、出典作品の観点、文字数の観点、容易さの観点からである。

出典作品については前節でも述べたが、第1条から第53条までは『明心宝鑑』以外に数多くの「白話小説」を中心とした書籍から出典していることがわかる。その具体的な状況をみてみると、第1条から第53条まで、『明心宝鑑』独自の出典が2箇条で、ほかの作品と重なる出典が5箇条で、計7箇条である。『水滸伝』は独自の7箇条と重なる20箇条で合計27箇条ある。『西遊記』は独自の4箇条と重なる12箇条で合計16箇条ある。『三国志』は独自の2箇条と重なる8箇条で合計10箇条ある。「三言二拍」は独自の7箇条と重なる24箇条で合計31箇条ある。また、上記以外の『論語・学而』、『景德伝灯録』、『五灯会元』、『偈頌一百四十一首』からの出典もみられる。

要するに、前部分の53箇条の中で、『水滸伝』、『西遊記』、『三国志』、「三言二拍」の白話小説からの出典が46箇条ある。時代背景を考えると、これらの作品は当時一番流行していた文学作品であり、単語を学習し終えた学習者のために、彼等の興味ある作品から選び出していたのは、編集者である岡島冠山が、如何に学習者の興味を引き、授業を順調に進めようとしたのか、その工夫と配慮が伺える。そして、第54条から第142条までは3箇条以外は全て『明心宝鑑』から出典しており（ほかの作品と重なるものもあるが、『明心宝鑑』が主である）、訓戒や思想面の内容が主なので、理解するのが難しいので、後部分に置いたのではないかと考えられる。

文字数の観点からみてみると、前部分の53箇条が4文字から8文字までなのが主流で、全体的に文字数が少ない傾向が強い。それに対して、第54条からの条目のほとんどは10文字から20文字ぐらいで、一番長い第79条の「行善之人如春園之艸不見其長日有所増 行悪之人如磨刀之石不見其損日有所虧」は34文字もあり、初学者には長すぎて、不適切なので、こういう長い条目は後部分に配列するという岡島冠山の配慮が伺える。

容易さの観点からみると、前の二つの観点とも関連しているが、学習者の興味、常言の内容、文字数のいずれからみても前部分のほうが簡単で、初学者に向いており、後部分のほうはレベルが高くなり、学習者に一定の漢文能力が要求されているので、このような順番の配列は自然で合理的である。

3. 「常言」訳文の分析

常言の訳文を原文、和訓と比較して分析してみると、その訳し方は以下のように分類することができる。それぞれ①和訓とほぼ同じ、即ち原文、和訓と訳文が大体同じである。合計35箇条みられる。②和訓の一部の言葉を俗語に変える、即ち全体的に訳文は和訓と同じであるが、一部の言葉を俗語に変えており、この種類の訳の仕方が合計58箇条みられた。③和訓に俗語で加訳、即ち和訓のもとで更に俗語で訳を加えた仕方で、合計24箇条みられた。④和訓を全体的に言い変える、即ち原文の言葉を殆ど変えて訳す仕方で、合計13箇条あった。⑤本質を強調する仕方である。本質を中心に訳しているが、俚俗な訳に本質を加えた仕方が3箇条あり、訳文なしで本質だけ現しているのが9箇条あり、合計12箇条ある。

上記の内容を一覧表にしてみると、以下のようになる。

訳し方	難易度	項目数	パーセント
ほぼ同じ	☆	35	24.65%

俗語に変える	☆☆	58	40.85%
加訳	☆☆☆	24	16.90%
全体的に変える	☆☆☆ ☆	13	9.15%
本質	☆☆☆ ☆☆	12	8.45%

五つの訳し方の中で、一番多いのが「俗語に変える」訳し方で、全体の40.85%を占めている。その次は「ほぼ同じ」の訳し方で、全体の24.65%を占めている。三番目は「加訳」で、全体の16.9%を占めている。四番目は「全体的に変える」訳し方で、全体の9.15%を占めている。最後は「本質」を表す訳し方で、全体の8.45%を占めている。

難易度のパーセントからみると、一番簡単な「ほぼ同じ」の24.65%以外のほかは全てレベルが高くて、冠山の工夫が伺える。また、その訳し方の豊富さからも、冠山の漢文の才能が反映されていて自由自在な訳文が表れている。

また、表記については以下のような特有な表記があり、「|」＝「こと」、「厶」＝「とも」、「、」＝繰り返す、「子」＝「ね」、「メ」＝して便宜上で本文では平仮名に直した。

3.1 和訓とほぼ同じ (35)

全体的に「ほぼ同じ」の条目は合計35箇条ある。詳しい内容は以下の表にまとめた。

表二

番号	原文	和訓	訳文
1	14好事不如無	好事モ無キニハ如ス	ヨキことモナキニハ。如ス
2	42良將擇主而仕、良鳥擇樹而棲	良將ハ主ヲ擇テ而して仕フ。良鳥ハ樹ヲ擇テ而して棲ハ	ヨキ大將ハ。主ヲ擇テ仕フ。ヨキ鳥ハ。樹ヲ擇テ棲ム

3	49以酒勸人原無惡意	酒ヲ以テ人ニ勸ルハ原惡意無シ	酒ヲ以テ。人ニス、ムルハ。本惡意ニアラス
4	54積善之家必有餘慶	積善之家ニハ。必ス餘慶有	善ヲツミシ人ノ家ニハ。必ス餘シノ慶ヒアリ
5	55積不善之家必有餘殃	積不善之家ニハ。必ス餘殃有リ	不善ヲツミシ人ノ家ニハ。必ス餘シノ殃ヒアリ
6	57人非義不交物非義不取	人義ニ非レハ交ラス。物義ニ非レハ取ラス	人ハ義ニアラザレハ交ラズ物ハ義ニアラザレハ取ラズ
7	58謀事在身成事在天	事ヲ謀ルハ身ニ在リ。事ヲ成スハ天ニ在リ	事ヲ謀ルハ身ニ在リ。事ヲ成スハ天ニ在ル
8	59大富在天小富在勤	大富ハ天ニ在リ。小富ハ勤ニ在ル	大ニ富ことハ。天ニ在リ。小キ富ことハ。勤ルニ在リ
9	62人可欺天不可欺	人ヲハ欺ヘシ。天ヲハ欺ヘカラス	人ヲハ欺クトモ。天ハ欺レヌモノナリ
10	63人可瞞天不可瞞	人ヲハ瞞ヘシ。天ヲハ瞞ヘカラス	人ヲハダマカストモ天ハダマカサレヌ
11	69善事雖貪惡事莫樂	善事ハ貪ト雖。惡事ハ樂こと莫レ。	善事ヲハ貪ルトモ。惡事ヲハ樂ムベカラズ
12	70善以自益惡以自損	善以テ自ラ益ス。惡以テ自ラ損ス	善ハ自分ノ益ナリ 惡ハ自分ノ損ナリ
13	72見善如渴聞惡如聾	善ヲ見テハ渴スルカ如シ。惡ヲ聞テハ聾ノ如シ	善ヲ見ルトキハ。渴スル如クニシ。惡ヲ聞トキハ。聾ノ如クニセヨ
14	75於我善者我亦善之於我惡者我亦惡之	我ニ於テ善キ者ノニハ。我モ亦タ之ニ善ス。我於テ惡シキ者ニハ。我モ亦タ之ニ惡クス	我ニヨクスル者ニハ。我モ亦コレニヨクス。我ニアシクスル者ニハ。我モ亦コレニアシクス
15	76仁慈者壽凶暴者亡	仁慈ナル者ハ壽シ。凶暴ナル者ハ亡フ	仁慈ナル人ハ壽シ。凶暴ナル人ハ亡ブ
16	78禍福無門惟人自招	禍福門無シ惟人自ラ招ク	禍福門ナケレドモ人自ラコレヲ招クナリ
17	79行善之人如春園之艸不見其長日有所増 行惡之人如磨刀之石不見其損日有所虧	善ヲ行フノ人ハ。春園ノ艸如シ。其ノ長スルことヲ見サレとも。日々増所有リ。惡行フノ人ハ。刀ヲ磨クノ石ノ如シ。其損スルこと見サレトモ。日々虧ル所有リ	善ヲ行フ人ハ。春ノ園ノ艸ノ如シ。其長スルことハ見エザレとも。 日々増ス所アリ。惡ヲ行フ人ハ。刀ヲ磨ノ石ノ如シ。其損スルことハ見エ所サレトモ。日々虧ル所アリ
18	82貪心害己・利口傷身	貪心ハ己ヲ害シ。利口ハ身ヲ傷フ	貪心ナル者ハ。己ヲ害シ。利口ナル者ハ。身ヲ傷フ
19	85成人不自在自在不成人	人ト成ルハ自在ナラス。自在ナレハ人ニ成ラス	人ト成ル者ハ。自在ナラズ。自在ナレハ。人ト成ラズ

20	91知足可樂彡貪則憂	足ことヲ知レハ樂可ヘシ。彡多ク貪レハ則憂フ	足ルことヲ知レハ樂ミアリ。貪リ多ケレハ憂ヒアリ
21	95推賢舉能面無慙色	賢ヲ推シ能ヲ舉ハ面ニ慙色無シ	賢ヲ進メ能ヲ挙テハ。面ニ慙ル色ナシ
22	99飽煖思淫慾饑寒起盜心	飽煖スルハ淫慾ヲ思フ饑寒スレハ盜心ヲ起ス	飽煖ナル者ハ。淫慾ヲ思フ。飢寒タル者ハ。恣心ヲ起ス
23	105有福莫享盡 福盡身貧窮 有勢莫使盡勢盡冤相逢	福有ハ享盡こと莫レ。福盡レハ身貧窮ス。勢ヒ有ハ使ヒ盡こと莫レ。勢ヒ盡レハ冤相逢フ	福アラハ。コレヲ享ケ尽スヘカラス。福尽クレハ。身貧クナルナリ。勢ヒアラハ。コレヲ使ヒ尽スヘカラス。勢ヒ尽クレハ。冤ニ逢フナリ
24	106凡事無難學只怕無心學	凡事學難ハ無シ。只怕クハ學心無ラン	凡事学ヒガタキハナシ。只恐クハ学ブ心ナカラン
25	113天不生無祿之人地不生無根之艸	天ハ祿無ノ人ヲ生セス。地ハ根無ノ艸ヲ生セス	天ハ祿ナキ人ヲ生セス。地ハ根ナキ艸ヲ生セス
26	114成家之兒惜糞如金敗家之子用金如糞	家ヲ成スノ兒ハ。糞ヲ惜こと金ノ如シ。家ヲ敗ルノ子ハ。金ヲ用ルこと糞ノ如シ	家ヲ成ス子ハ。糞ヲ惜こと金ノ如ク。家ヲ敗ル子ハ。金ヲ用ルこと糞ノ如シ
27	117遠非道之財戒過度之酒	非道ノ財ヲ遠ケ。過度ノ酒ヲ戒ム	非道ノ財ヲ。遠ザケ。過度ノ酒ヲ。戒ムヘシ
28	119居必擇鄰交必擇友	居必ス鄰ヲ擇リ。交必ス友ヲ擇ヘ	居セハ必ス隣リヲヲ（ママ）擇ブヘシ。交ハ必ス友ヲ擇ブヘシ
29	122水至清則無魚人至察則無徒	水至テ清メハ則魚無。人至テ察カナレハ則徒無	水至テ清メハ魚ナシ。人至テ察カナレハ徒ナシ
30	123家貧顯孝子世亂識忠臣	家貧して孝子ヲ顯ス。世亂レテ忠臣ヲ識ル	家貧フして。孝子ヲ顯ス。世乱レテ。忠臣ヲ識ル
31	129天有不測之風人有不測之禍	天ニ不測之風有リ。人ニ不測之禍ヒ有ル	天ニハ測ラザルノ風アリ人ニハ測ラザルノ禍アリ
32	131酒不醉人人自醉色不迷人人自迷	酒ハ人ヲ醉ハシメス。人自ラ醉フ。色ハ人ヲ迷ハシメス。人自ラ迷フ	酒ハ。人ヲ醉ハシメザレとも。人自ラ醉フ。色ハ。人ヲ迷ハシメザレとも。人自ラ迷フ
33	133遠水難救近火遠親不如近鄰	遠水ハ近火ヲ救ヒ難シ。遠親ハ近鄰ニ如ス	遠キ水ハ。近キ火ヲ。救ヒカタン。遠キ親類ハ。近キ隣ニ如ス
34	135清貧常樂濁富多憂	清貧ハ常ニ樂ム。濁富ハ憂多シ	清ク貧キ人ハ。常ニ樂ム。濁リ富ム者ハ。憂ヒ多シ
35	142兄弟為手足夫婦如衣服衣服破時更得新手足斷時難在續	兄弟ハ手足為リ。夫婦ハ衣服ノ如シ。衣服破ル時ハ更テ新ルヲ得ン。手足斷ル時ハ再ヒ續難シ	兄弟ヲ手足トシ。夫婦ハ衣服ノ如シ。衣服破ル時ハ。新ラシキニ更ムヘシ。手足斷ル時ハ。再ヒ續キガタン

以上の表の35箇条は原文、和訓と訳文はいずれもほぼ同じで、特別な訳し方がみえなく、字面通りの訳し方と言える。

3.2 和訓の一部の言葉を俗語に変える (58)

この種類の条目は合計58箇条ある。詳しい内容は以下の表にまとめた。下線部は俗語であると考える。

表三

番号	原文	和訓	訳文
1	1 平常不作虧心事、半夜敲门不喫驚	平常心ヲ虧クことヲ作スンハ。半夜ニ門ヲ敲ケとも驚ことヲ喫セス	平日ウシロ。クラキコトヲセねハ。半夜ニ門ヲタ、ケとも驚クことアラス
2	2 欲要生富貴須下死工夫	富貴ヲ生ント欲セハ。須ク死工夫ヲ下スヘシ	フウキニナラント思ハ。ズイブン工夫ヲイタスベシ
3	5 家醜不可外揚	家醜外ニ揚ヘカラス	家内ノ。アシキコトラハ。外ニモラスナ
4	6 猫頭上于魚	猫頭上ノ于魚	ねコニナマイハシト云フこと
5	10 比上不足比下有餘	上ニ比レハ足ラス。下ニ比レハ餘有り	上ヲ見ハ。限りハナケレとも。下ヲ見レハ。マダヨヒ肉ト云こと
6	11 三人出外・小的兒苦	三人外ニ出レハ小的兒苦シム	三人打ツレテ。タビヲスルトキハ。ワカキ者が辛勞ヲスル
7	15 好事不出門・惡事傳千里	好事門ヲ出ス・惡事千里ニ傳フ	ヨキことハ。門ヨリ外ニ聞エスシテ。アシキことハ千里ノ外エ聞ユ
8	18 好漢惜好漢猩猩惜猩猩	好漢ハ好漢ヲ惜。猩猩ハ猩猩ヲ惜ム	豪傑ハ。豪傑ヲオシム。猩猩ハ。猩猩ヲオシム
9	19 物悲其類	物ハ其ノ類ヲ悲ム	物ハ己カ類ヲ悲ム
10	27 不怕官只怕管	官ヲ怕レス。只管ヲ怕ル	公儀ハ。コハクナクシテ。支配スル人ガ。コハイト云こと
11	28 官無三日禁	官ニ三日ノ禁無シ。	公儀ノ三日法度ト云フ
12	30 有錢可以通神	錢有レハ以テ神ヲ通ヘシ。	錢サエアレハ神通モナル
13	31 公人見錢如蒼蠅見血	公人錢ヲ見テハ。蒼蠅ノ血ヲ見ルカ如シ	公儀ノ役人ノ錢ヲ見ルハ。ハイノ。血ニタカル、ガ如シ
14	32 遠親不如近鄰	遠親近隣ニ如ス	遠キ親ルイハ。近キ他人ニ如ス

15	33送君千里終須一別	君ヲ千里送ルこと。終ニ須ク一別スヘシ	ドコマデ送テモ。終ニハ別ルト云こと
16	34一日拜師終身為父	一日師ト拜してハ。身ヲ終ルマテ父ト為ス	一日師トスレハ。一生父トスル
17	35殺人須要見血	人ヲ殺してハ須ク血ヲ見ルことヲ要スヘシ	人ヲ殺してハ。タシカニ死タルヲ。見届ヨト云フこと
18	36見讐人分外眼明	讐人ヲ見レハ。分外ニ眼明ナリ	カタキヲ見ル眼ハ。別して明ト云フこと
19	37家貧不是貧路貧愁殺人	家ノ貧ハ是レ貧ニアラス。路ノ貧ハ人ヲ愁殺ス	宿ニテ貧キハ。貧キト云フ者ニハアラス。旅ニテ貧キハ。人ヲして愁殺セレム
20	40寡不可敵衆	寡ハ衆ニ敵ス可ラス	小勢ハ大勢ニ敵スベカラズ
21	41養將千日用將一朝	將ヲ養フこと千日、將ヲ用ルこと一朝	將ヲカ、エ置フハク多用ルハフ一朝ニアリ
22	44作善降之百祥作不善降之百殃	善ヲ作セハ之ニ百祥ヲ降シ。不善ヲ作セハ之ニ百殃ヲ降ス	善ヲナセハ。百ノ祥ヒヲ降ス。不善ヲナセハ。百ノ殃ヒヲ降ス
23	45男大須婚女大須嫁	男大ナレハ須ク婚ス須ヘシ 女大レハ須ク嫁スヘシ	男子成長セハ。妻ヲ娶ルベシ。女子成長セハ。夫ニ嫁スベシト云こと
24	48花無百日紅人無千日好	花ニ百日ノ紅無ク。人ニ千日ノ好無シ	花ハ日久シク紅ナルことハナシ。人ハ日久シク。中ヨキことハナシ
25	50一日不見莫作舊時看	一日見サレハ。舊時ノ看ヲ作スこと莫レ	一日見スンハ。前カドノヤウニハ思フナト云こと
26	51好事大家知	好事ハ大家（ヲノヲノ）知ル	ヨキことハ各々知ル
27	52富者冤之叢	富ハ者冤ノ之叢リ	トミハ。ウラミノ。アツマリ
28	53大丈夫一言駟馬難追	大丈夫ノ一言ハ。駟馬追ヒ難シ	大丈夫ノ一言ハ。少シモチガヒナシト云こと
29	60人間私語天聞若雷暗室虧心・神目如電	人間ノ私語。天聞こと雷若シ。暗室ノ虧心・神目ルこと電ノ如	人間ニ。ソ、ヤキコトヲ云フヲハ。天コレヲ聞こと雷ノ如シ。暗室ニテ。ウシロクラキコトヲスルヲハ。神コレヲ見ルこと電ノ如シ
30	64萬事不由人計較都是命安排	萬事人ノ計較ニ由ラス、都テ是レ命ニ安排ス	凡事ハ。人ノ計ニ由ルニアラズ。都テ天命ノコシラエル所ナリ
31	65臨財無苟得臨難無苟免	財ニ臨テ苟モ得ルこと無レ。難ニ臨テ苟モ免ルこと無レ	財ニ臨タリとも。メツタニ。コレヲ取ルことナカレ。難ニ臨タリトモメツタニ。コレヲ免ルことナカレ

32	66駕馬自受鞭策愚人終受毀唾	駕馬ハ自ラ鞭策ヲ受ケ。愚人ハ終ニ毀唾ヲ受ク	乗ラレタル馬ハ。自ラ鞭ヲ受ケ。愚ル人ハ。終ニ毀ヲ受ク
33	68養子方知父母恩立身方知人辛苦	子ヲ養テ方ニ父母ノ恩ヲ知り。身ヲ立テ方ニ人ノ辛苦ヲ知ル	子ヲ持テ後。父母ノ恩ヲ知り。立身して後人ノ辛苦ヲ知ル
34	71與人方便就是自家方便	人ノ與メノ方便ハ。就チ是レ自家ノ方便ナリ	人ノ為ニ方便ヲスレハ。即チ我為ノ方便トナルナリ
35	73画餅不充餓	画餅ハ餓ヲ充サス	繪ニカキタル餅ハ。餓ノ助ケニハ。ナラヌト云こと
36	81寡言則省謗 寡慾則保身	言寡レハ則謗ヲ省ク。慾寡レハ則身ヲ保ツ	言語寡ケレハ謗ヲ省ク。色慾寡ケレハ。身ヲ保ツ
37	83慾多傷身財多累身	慾多レハ身傷ヒ。財多レハ身ヲ累ハス	色慾多ケレハ。身ヲ傷フ。財宝多ケレハ。身ヲ累ハス
38	88良農不為水旱不耕良買不為折閤不市	良農ハ水旱ノ為メニ不耕ササルことアラス。良買ハ折閤ノ為メニ市ササルことアラス	ヨキ農人ハ。水損日損アリト云へとも。不耕ト云ことナシ。ヨキ商人ハ。損失損亡アリト云へとも。不商ト云ことナシ
39	90借人典籍皆須愛護凡有決壞就即補治	人ノ典籍ヲ借りテハ。皆須ク愛護スヘシ。凡ソ決壞有ハ。就即チ補治セヨ	人ノ書籍ヲ借ラハ。大切ニイタセ。若壞フことアラハ。早速修フクセヨ
40	92若要做法活必須大事化小事小事化沒事	若快活ヲ做ント要セハ。必ス須ク大事ヲハ小事ト化シ。小事ヲハ沒事ト化セ	若タノシミタク思ハ。大事ヲハ変シテ。小事トナシ。小事ヲハ変シテ。無事トナセ
41	93柔弱護身之本剛強惹禍之由	柔弱ハ身ヲ護ノ本。剛強ハ禍ヲ惹クノ由	柔弱ハ。身ヲ保チ護ルノ本也。剛強ハ。禍ヲ惹キ出スノ本也
42	94各人自掃門前雪休管他人屋上霜	各人自ラ門前雪ヲ掃。他人ノ屋上ノ霜ヲ管スルことヲ休メヨ	面々自分ノ事ヲ。カセイテ。他人ノことヲ。カマフナト云こと
43	96長短ハ家家有炎涼處處同	長短ハ家家ニ有リ。炎涼ハ處處同シ	誰カ家ニモナガヒノ。ミシカヒノ。アツヒノ。サムヒノト。云ことアリ
44	97至樂莫如讀書至要莫如教子	至樂ハ書ヲ讀ムニ如クハ莫至要ハ子ヲ教ルニ如クハ莫	至極楽シマシキハ。書ヲ讀ニ如クハナシ。至極勘要ノことハ。子ニ教ルニ如クハナシ
45	100長思貧難危困自然不驕每思疾病熬煎並無愁悶	長ク貧難危困ヲ思ハ。自然ニ驕ス。毎ニ疾病熬煎ヲ思ハ並愁悶無	長ク貧キ時ノ事ヲ思へハ。自ラ驕ルことナシ。常ニ病フ時ノ事ヲ思へハ。曾テ愁フことナシ

46	102賢人多財損其志・愚人 多財益其愚	賢人多財ナレハ其ノ志ヲ損 ス。愚人多財ナレハ其ノ愚 ヲ益ス	賢人財宝多ケレハ。其志ヲ 損ス。愚人財宝多ケレハ。 其愚ヲ益ス
47	103人貧智短 福至心靈	人貧ナレハ智短シ。福至レ ハ心靈ナリ	貧ナレハ。ドンシ。富ハ。 カシコク成ルト。云こと
48	108小船不堪重載淡徑不立 獨行	小船ハ重ク載ルニ堪ス。淡 徑ハ獨リ行クヘカラス	小船ハ。重荷ヲ積ニタエ ス。淡キ徑チヲハ。獨リ行 クヘカラズ
49	110在家不會迎賓客出外方 知少主人	家ニ在テ客ヲ迎フことヲ會 ササレハ。外ニ出テ方ニ主 人ノ少キヲ知ル	宿ニ在ルトキ。賓客ヲ迎ル ことヲ。ナサザル者ハ。外 ニ出テ。初テ亭主トナル人 ノ。少キことヲ知ル
50	112寧塞無底坑難塞鼻下橫	寧口無底ノ坑ヲ塞クトモ。 鼻下ノ橫ハ塞キ難シ	イツソ。底ノナキ坑ハ塞ク トモ。鼻下橫ハ。塞カレヌ
51	116豪家未必長富貴貧家未 必常寂寞	豪家モ未タ必スシモ長ク富 貴ナシ。貧家モ未タ必シモ 常ニ寂寞ナラシ	大家タリとも。必ス長ク富 貴ナルことハアルマジ。貧 家タリとも。必ス長ク寂寞 ナルことハアルマジ
52	118心行慈善何須努力看經 意欲損人空讀如來一藏	心ニ慈善ヲ行ハ。何ソツ トメテ經ヲ看ルことヲ須ヒ ンヤ意ニ人ヲ損ニト欲ハ。 空ク如來ノ一藏ヲ讀ン	心ニ慈悲ヲ行ハ。勤メテ經 ヲ看ルニ及ハス。意ニ人ヲ 損ササンこと欲セハ。如來 ノ一藏ヲ讀トモ空シキこと トナルヘシ
53	121身披一縷常思織女之勞 日食三飡每念農夫之苦	身ニ一縷ヲ披ハ。常ニ織女 之勞ヲ思ヘ。日ニ三飡ヲ食 ハ。毎ニ農夫之苦ヲ念ヘ	身ニ一件ノ衣ヲ着ハ。常ニ 織女ノ勞ヲ思フヘシ。日ニ 三度ノ飯ヲ喫セハ。毎ニ農 夫ノ苦ミヲ念フヘシ
54	124輕諾者信必寡面譽者背 必非	輕ク諾スル者ハ信必ス寡シ 面ノアタリニ譽ル者ハ背口 ニテ必ス非ル	輕ク誥合者ハ。必ス信ト寡 シ。面ノ前ニテ譽ル者ハ。 必ス背口ニテ非ル
55	128經目之事猶恐未真 背後 之言豈足深信	目ニ經ル之事。猶恐クハ 未タ真 アラス。背後之言。 豈深信スルニ足ンヤ	目ニ經レシ事ダニモ。尚真 ナラザルことアリ。況ヤ背 後ニテ云フコト。何ソゾ淡 ク信スルニ足ンヤ
56	136無故而得千金不有大福 必有大禍	故無シ而して千金ヲ得ハ。 大福有スして必ス大禍有ラ ン	何ノ故モナクして。不圖千 金ヲ得ハ。大福ハアラスし て。必ス大禍アラシ
57	140癡人畏婦賢女敬夫	癡人ハ婦ヲ畏レ賢女ハ夫ヲ 敬フ	癡人ハ妻ヲ畏レ。賢女ハ。 夫ヲ敬フ
58	141婚娶而論財夷虜之道也	婚娶して而財ヲ論ルハ。夷 虜之道也	婚礼ヲスルニ。財宝ノコト ヲ論スルハ。夷ノ道ナリ

この種類は合計58箇条あり、その中では、いずれも部分的な言葉を平易でかつ人情に近い俗語に変えており、和訓と比べると、より理解しやすい訳に

なっている。

3.3 和訓に俗語で加訳する (24)

この種類は合計24箇条あり、判断の基準は明らかに原文にはない内容や言葉、岡島冠山が訳した際に工夫して、加えた訳し方を加訳とする。下線部が俗語での加訳であるとする。

表四

番号	原文	和訓	訳文
1 ※	13寧可信其有不可信其無	寧口其有ヲ信ヘシ。其ノ無ヲ信ス可ス	イツソ。目二見テ。有ルことヲ。マコト、シテ。目二見スシテ。無キことハ。マコト、スナ
2	17過則勿憚改	過ハ則改ルニ憚ル勿レ	アヤマリアラハ憚ラズ改ムヘシ
3	21一不做二不休	一ニ做サス。二ニ休マス	イタサねハ。イタサヌ。イタシカ、リテハ。ヤメス
4	38人不可貌相海水不可斗量	人ハ貌ヲ相ス可ラス。海水ハ斗ニテ量ル可ラス	人ハ。面ヲ見テ。善惡ヲ論スベカラス。海水ハ。斗ヲ以テ。量ルベカラズ
5	46有縁千里易相逢無縁對面難相見	縁有レハ千里相ヒ逢フニ易シ。縁無ンハ對面相ヒ見エ難シ	縁アレハ。千里ヲ隔テモ。逢ヒ易ク。縁ナケレハ。向エニ居テモ。逢ヒガタシ
6	56画虎画皮難画骨知人知面不知心	虎ヲ画クニハ皮ヲ画テ骨ヲ画キ難シ。人ヲ知ルニハ面ヲ知テ心ヲ知ラス	虎ヲ画クニハ。皮ハ画ケトモ。骨ヲ画キカダシ。人ヲ知ルニハ。面ヲ知レトモ。心ヲ知ラス
7	67恩義廣施人生何處不相逢 譬冤莫結路逢險處難廻避	恩義ヲ廣ク施セ人生何レノ處ニテ相ヒ逢ワンヤ。譬冤ヲハ結こと莫レ。路險處ニ逢テ廻避シ難シ	恩ヲハ廣ク施セ。人ハ何レノ處ニテ。逢ンモ料リカタシ。冤ヲハ結ヘカラズ冤ヲ結ヒシ上ニテハ。路ニテ危キことニ逢テ。避ケガタキト。云意也
8	74若要前程莫作沒前程	若シ前程有ンことヲ要セハ。前程沒キことヲ作スこと莫レ	若行未ニ。ヨキこと。アランことヲ。求メタクハ。行末ニ。ヨキこと。ナカランヤウノことヲ作ことナカレ

9	77 為子孫作富貴計者十敗其九為人行善方便者其後受惠	子孫ノ為メニ富貴計ヲ作ス者ハ。十其九ヲ敗ル。人ノ為メニ善方便ヲ行フ者ハ。其後惠ヲ受ク	子孫ノ為ニ。富貴ノ計ヲ作ス者ハ。反テ十カ九ハ敗レヲ取ル。人ノ為ニ善キ方便ヲ行フ者ハ。必ス其後惠ヲ受ルコトアリ
10	84 酒中不語真君子財上分明大丈夫	酒中ニ語サルハ真君子。財上ニ分明ナルハ大丈夫	如何ヤウノことタリとも。酒ノ座ニテ。云ハサルハ。真君子ナリ。金銀財宝ノことヲ。分明ニイタスハ。大丈夫ナリ
11	86 自見者不明。自是者不彰	自ヲ見ル者ハ明ナラス。自ヲ是トスル者ハ彰レス	自己ノ見ヲ以テ。決断スルことハ。明カナラズ。自己ノ了簡ヲ以テ。是トスルことハ。彰レス
12	101 好食色貨利者氣必吝。好功名事業者氣必驕	食色貨利ヲ好ム者ハ氣必ス吝カラン。功名事業ヲ好ム者ハ氣必ス驕ラン	美食好色貨財利息ヲ好ム者ハ其氣質必ス吝(シハ)キことアラン。功勳佳名大事洪業ヲ好ム者ハ必ス其氣質驕ルことアラン
13	104 平生不作皺眉事天下應無切齒人	平生眉皺ムノ事ヲ作スンハ。天下齒切ルノ人無カルヘシ	平生眉ヲ皺ルヤウノ。ニガニガシキことヲセズンハ。天下ニ齒ヲ切り牙ヲ咬テ。罵ル者ハアルマジ
14	107 黄金千兩未為貴 得人一語勝千金	黄金千兩未タ貴為ス。人一語ヲ得ハ千金ニ勝レリ	黄金千兩ハ。未タ貴キトスルニ足ラス。人ノ一言ヲ得ハテ。千金ニ勝レリ
15	109 利可共而不可獨 謀可獨而不可衆 獨利則敗 衆謀則泄	利ハ共ニ可ク而して獨ヘカラス。謀ハ獨可ク而して衆ト可不。獨利スルトキハ則敗レ。衆ト謀ルトキハ則泄ル。	利ハ。人ト共ニして。獨ニテナスヘカラス。謀ことハ。獨ニテナシテ。衆ト共ニナスヘカラス。利ヲ獨ニテ得ルトキハ必ス敗ル。謀ことヲ衆ト共ニ致ストキハ必ス泄ル
16	111 貧居鬧市無人識 富在深山有遠親	貧レハ鬧市ニ居レトモ。人ノ識ル無シ。富テハ深山ニ在レトモ。遠キ親ミ有リ	貧キ人ハ。鬧ル町ノ中ニ居スレトモ。コレヲ知ル者ナシ。富ル人ハ。深山ノ内ニ在レトモ。遠クヨリ親ム者アリ
17	120 骨肉貧者莫疎 他人富者莫厚	骨肉ノ貧キ者疎ルこと莫レ。他人ノ富ル者厚ルこと莫レ	親類ナラハ。貧シキ者タリトモ疎ンスルことナカレ。他人ナラハ。富メル者タリトモ。厚クスルヲナカレ

18	126凡大丈夫重名節於泰山 輕死生於鴻毛	凡ソ大丈夫ハ。名節ヲ泰山 ヨリ重ンシ。死生ヲ鴻毛ヨ リ輕ンス	大丈夫ハ。善ヲ見ルこと明 カニして。心ヲ用ユルこと 剛キ故。如此名節ヲ重ン ジ。死生ヲ輕ンスル者也
19	130方今之人惡死凶而樂不 仁是猶惡醉而強酒	方ニ今之人。死凶ヲ惡テ。 而して不仁樂ム。是レ醉ヲ 惡テ而酒ヲ強ヒルカコトシ	今ノ人ハ。死凶ヲ惡テ。不 仁ヲ樂ム。是乃チ醉フこと ヲ惡テ。酒ヲ強ヒルガ如シ
20	132國之將興實在諫臣 家 之將榮必有諍子	國ノ將ニ興ントス。實諫臣 ニ在リ。家ノ之將ニ榮ント ス。必ス諍子有リ	國ノ興ルことハ。諫メヲ申 ス。忠臣ニ在ル也。家ノ 榮ントスル時ハ。必ス諍ヲ 致ス。孝子有ル也
21	134白玉投於淤泥不能汚濕 其色君子行於濁地不能染 亂其心	白玉ハ淤泥ニ投トモ。其色 ヲ汚濕スルこと能ス。君子 ハ。濁地ヲ行トモ。其心ヲ 染亂スルこと能ス	白玉ハ。淤泥ノ内ニ投ケ入 レルト云ヘトモ。其色ヲ汚 スこと能ハス。君子ハ濁地 ヲ行クト云ヘトモ。其心ヲ 染メルこと能ハス
22	137德微而位尊智小而謀大 無禍者鮮矣	徳ク微ニして而して位ヒ尊 ク。智小して而して謀こと 大ヒナルハ禍無キ者鮮シ矣	徳微ニして位尊ク。智小ニ して。謀こと大ヒナル如キ ノ者ハ。禍ヒナキこと鮮シ
23	138金玉者飢不可食寒不可 衣自古以穀帛為貴也	金玉ハ飢テ食フアタワス。 寒テ衣ル可不。古自リ穀帛 ヲ以テ貴ト為ス也	金玉ハ宝タリト云ヘとも。 飢タル時。食こと能ハス。 寒エタル時。衣ルこと能ハ ス。是故ニ古ヘヨリ。米穀 錦帛ヲ。貴シトスル也
24	139貧窮患難親戚相救婚姻 死喪隣保相助	貧窮患難ハ。親戚相ヒ救 フ。婚姻死喪ハ。隣保相ヒ 助ク	貧窮艰难ノことハ。親類 共。コレヲ相救フ。婚礼葬 喪ノことハ。隣家共。コレ ヲ相助ク

この種類の24箇条にはいずれも加訳がみえて、しかも俗語が用いられているという特徴があり、左の原文から真ん中の和訓、更に右の訳文まで次第に理解しやすくなっている。

なお、1番目の第13条の「寧可信其有不可信其無」の訳文は「イツソ。目ニ見テ。有ルことヲ。マコト、シテ。目ニ見スシテ。無キことハ。マコト、スナ」で、この訳文を現代日本語で言い換えると、目に見たことは真とし、目に見えないことは真とするなという意味である。しかし、その原文の意味は、あることの有無を迷っているなら、ないよりあるほうを信じるべきであるとなる。『唐話纂要』の訳文のほうが少しずれているようである。

3.4 和訓を全体的に言い変える（13）

この種類は合計13箇条あり、いずれも訳文の内容が原文と異なるが、意図している意味は共通である。

表五

番号	原文	和訓	訳文
1	3把官路當人情	官路ヲ把テ人情ニ當フ	シフトノ物デ。アイムコ。モテナスト云フこと
2	4借花供佛	花ヲ借テ佛ニ供ス	同上
3	7只有錦上添花那得雪中送炭	只錦上ニ花ヲ添ユルこと有リ。那ソ雪中ニ炭ヲ送ルことヲ得ンヤ	フウキノ者ニハ。ヒタスラ物ヲ送レとも。ヒンセンノ者ニハ。何モ送ラヌト云フこと
4	16走三家不如坐一家	三家走ルハ。一家ニ坐スルニ如ス	方々ニ。アルカズトモ。コ、ニ居ヨト云こと
5	20兔死狐悲	兔ハ死ハ狐悲ム	頗ル上ト同意（物ハ己カ類ヲ悲ム）
6	25虎不食伏肉	虎伏肉ヲ不食セス	向フ顔ニ。矢夕、ズト云こと
7	26虎不生狗	虎狗ヲ生マス	親ガヨケレハ。ワルヒ子ハ。ウマヌト云こと
8	29官不容針。私通車馬	官ニハ針ヲ容セス。私クニ車馬ヲ通ス	オモテムキハ。キビシケルトモ。内シヤウハ。ユルヤカナト云こと
9	39二虎相闘必傷其一	二虎相闘ハ必ス其一ヲ傷フ	勇士ト勇士ト戦バ。必ス其一ヲ傷フト云こと
10	47賊走閉門	賊走テ門ヲ閉ス	ヘヒツテ。シリスボムト云こと
11	61種瓜得瓜種豆得豆	瓜ヲ種テ瓜ヲ得。豆ヲ種テ豆ヲ得	善事ヲスレハ。善事ガアリ。悪事ヲスレハ。悪事ガアルト云こと
12	87含血噴人先汚自口	血ヲ含ミテ人ニ噴ヘハ。先ツ自ラノ口ヲ汚ス	人ノことヲ。ワルク云フ時ハ。先ツ我身ノことヲ。云カブルト云意
13	89一行有失百行俱傾	一行失有レハ。百行俱ニ傾ク	一色ヲ。シソコナエハ。種種ノことガ。ワルクナルト云こと

10番の「賊走閉門」の中国語は、泥棒が逃げた後にドアを閉める、即ちもう何をしても間に合わないということを表現している。冠山は訳す際に、随分俚俗な言葉に変えた、即ちおならして、お尻を縮めてももう遅いと。何も

役立たないし、間に合わないという意味である。従って言い方を変えてみると、違う気象が現れているが、その到達点即ち間に合わない、役立たない、遅いという本質は同じである。

また、11番の「種瓜得瓜種豆得豆」の元々の中国語は相当俚俗であるので、市井の人々は言っていることは分かるが、その奥に一体何が表現されているかおそらく読み取れない。そこで、冠山はその瓜と豆を善事と悪事に変えて、全体的な雰囲気を一変させたと同時に、品格や格調も高めたのである。中野（2015）の「俗中の雅」の評価にぴったり適合している。「表現・素材の俗、精神の雅という構図は一貫しており、その上で積極的にその混淆・融和を推し進めて、それぞれの範疇において雅俗兼備の状態をもっとも良しと評価しようという¹」のである。

この13箇条は言い方をほとんど変えている。それはここでの常言は、日本では通じないか或いは、ややわかりづらいかの関係で、冠山がその言い方を変えてより俗語的な訳文を付けて、その意味を元の中国語と同じように表そうとしたものとする。いずれも俗語を用いて、理解しやすくする訳の仕方である。

3.5 本質を強調する (12)

この種類は合計12箇条あり、それぞれまた下記の二種類に分けられる。一つ目は俚俗な訳文+本質の訳し方で、合計3箇条ある。もう一つは本質のみの訳文で、合計9箇条ある。

1 p10中野三敏『十八世紀の江戸文芸—雅と俗の成熟』中野三敏 岩波書店
2015年10月

3.5.1 俚俗な訳+本質（3）

表六

番号	原文	和訓	訳文
1	115 趕人不要趕上捉賊不如趕賊	人ヲ趕フハ。趕ヒツクコトヲ要シ。賊ヲ捉フハ。賊ヲ趕フニ如ス	人ヲ趕ハ。趕上ヘカラス。賊ヲ捉フハ。賊ヲ趕フニ如ス 此語ハ。縦ヒ理アルことタリとも。十分ニ勝チヲ取ルナト云こと也
2	125 春雨如膏行人惡其泥濘 秋月揚輝盜者憎其照鑑	春雨ハ膏如クナレトモ。行人ハ其ノ泥濘ヲ惡ム。秋月ハ輝リヲ揚レとも。盜者ハ其ノ照鑑ヲ憎ム	春ノ雨ハ膏ノ如クニシテ。田地ノ為メニモ好ケレドモ。路ヲ行ク人ハ。地上ノ泥濘ヲ惡ム。秋月ハ輝リヲ揚テ。翫賞ノ為メニモ佳ケレドモ。盜ヲ作ル者ハ。遍處ヲ照鑑ヲ憎ム。凡ソ世間ノ事。平均ニハ。ナリガタシト云意
3	127 不恨自家麻繩短只怨他家古井淡	自家ノ麻繩ノ短ヲ恨ス。他家ノ古井ノ淡ヲ怨ム	我家ノ繩ノ短キハ恨ズシテ。人ノ家ノ井ノ淡ヲ怨ム。己力過チヲ知ラスシテ。人ヲ怨ト云こと

この3箇条は、いずれも原文の訳文と本質を表す文の構成となっている。下線部が本質を表す文である。ここでは、原文を訳した上で、さらに日本人に理解しやすい言葉で本質の文を補足して、理解しやすくしている。冠山は、常言が表現する真義には深みがあり、一般の読者には分かりづらい上に、また、この三つの常言は中国の文化背景と関連性が強く、異なる社会で育った日本人には分かりづらいと気付いたのであろう。

3.5.2 本質のみ（9）

表七

番号	原文	和訓	訳文
1	8 蝦蟇在天井裡想天鵝肉喫	蝦蟇天井裡ニ在テ天鵝ノ肉ヲ喫セント想フ	カナワヌことヲ思フこと
2	9 水中捞月	水中ニ月ヲ捞フ	同上（カナハヌフヲ思フ）
3	12 行路防跌喫飯防噎	路ヲ行ニハ跌ヲ防キ。飯ヲ喫スルニハ噎ヲ防ク	用心シタガヨヒト云フこと

4	22單絲難線孤掌不鳴	單絲線ニ難ク孤掌鳴カス	獨リニテハ。何事モ成就シガタシト云こと
5	23如漆似膠	漆ノ如ク膠ニ似リ	中ノヨヒこと
6	24如魚似水	魚ノ如ク水ニ似リ	中ノヨヒこと
7	43三十六計走為上計	三十六計。走ヲ上計為ス	逃タガ。ヨヒ計ト云こと
8	80不教而善非聖而何教而後善非賢而何教而不善非愚而何	教スシテ善ナルハ。聖ニ非ンバ何ソヤ。教テ而シテ後ニ善ナルハ。賢ニ非ンハ何ソヤ。教テ善スンハ。愚ニ非ンハ何ソヤ	教エスシテ。善ナル者ハ。聖ナランカ。教エテ後。善ナル者ハ賢ナランカ。教エテモ。不善ナル者ハ。愚ナランカ
9	98不登山不知天之高也不臨谿不知地之厚也	山ニ登サレハ。天之高ヲ知ラス也。谿ニ臨サレハ。地之厚ヲ知ラス也。	事ニハアタツテ見スハ知ラヌト云こと

この種類の9箇条はいずれも訳文のほうが本質のみとなっており、原文の字面通りの訳文ではなくなっている。これはこの9箇条の常言を見てみると、使われている言葉が比較的簡単で、一定の能力を身につけた漢文学習者には見てすぐ分かれると冠山が考えたかもしれない。それで、字面通りに訳す必要がなくて、本質だけを表しているのだろう。

4. 出典作品ごとの和訓と訳文についての分析

前節でも述べたが、作品ごとの出典は以下ようになる。『明心宝鑑』からの出典は93箇条（単独なのが67箇条で、重なるのは26箇条）で、『水滸伝』からの出典は34箇条（単独なのが7箇条で、重なるのは27箇条）で、『西遊記』からの出典は22箇条（単独なのが4箇条で、重なるのは18箇条）で、『三国志』からの出典は12箇条（単独なのが2箇条で、重なるのは10箇条）で、「三言二拍」からの出典は47箇条（単独なのが7箇条で、重なるのは40箇条）であることが分かる。

上記の内容と作品ごとの訳し方を一覧表にしてみると、下記のようになる。

表八

	明心宝鑑93		水滸伝34		西遊記22		三国志12		三言二拍47		その他6
	単独 67	重なり 26	単独 7	重なり 27	単独 4	重なり 18	単独 2	重なり 10	単独 7	重なり 40	単独6
ほぼ同じ 35	23	9	1	4	0	2	0	3	0	8	0
俗語に 変える 58	24	10	2	15	3	9	0	4	3	19	3
加訳 24	14	5	0	3	0	3	0	0	1	6	2
全体的に 変える13	2	1	2	1	1	1	2	1	3	2	1
本質12	4	1	2	4	0	3	0	2	0	5	0

『明心宝鑑』は五つの訳し方が全部あり、また、「ほぼ同じ」項目が三分の一ぐらいで、残りの三分の二は全て翻訳の難易度が高いほうである。また、俗語や加訳で分かりやすくして、『明心宝鑑』の中の人生訓、真意、本質を上手に伝えるように、工夫を凝らしていることが分かる。

『水滸伝』になると、単独の出典は加訳以外の五つの訳し方が使われており、重なりのほうはいずれもある。難易度の分布から見ると、やはり翻訳のレベルの高さが伺える。

『西遊記』をみても、単独のほうは難易度の高いほうで、重なりのほうはいずれもあるが、全体的な難易度の分布から見ると、やはり工夫を凝らしていることが分かる。

『三国志』になると、「ほぼ同じ」の3箇条以外に、残りの9箇条は全て工夫が必要な訳し方である。三言二拍やその他にも同じような傾向性が見られる。

5. むすびに

「常言」の出典について、以前の研究の基礎の上に再考し、出典の結果に関して更新した。また、「常言」の出現順に関しては、岡島冠山が出典作品、

文字数、容易さなど様々な観点から学習者に対し配慮して、学習を順調に進めさせていることがわかる。次に、「常言」の訳し方については、以下の五つの訳し方が使われていることが判明した。①和訓とほぼ同じ、即ち原文、和訓と訳文が大体同じである。合計35箇条見られる。②和訓の一部の言葉を俗語に変える、この種類の訳の仕方が合計58箇条見られた。③和訓に俗語で加訳、和訓のもとで更に俗語で訳を加えた仕方で、合計24箇条見られた。④和訓を全体的に言い変える、即ち原文の言葉を殆ど変えて訳す方法で、13箇条あった。⑤本質を強調する訳し方で、全部で12箇条あった。その中で、①35箇条以外のほかの訳し方においては全て翻訳の工夫がなされており、このような訳し方が圧倒的に多いことが判明した。このことは、出典作品ごとに分析しても同じような傾向があることが分かった。

参考文献

- (1) 高橋強、耿蘭「岡島冠山著『唐話纂要』の「常言」に関する一考察 — その出典と受容した教訓を中心として —」創大中国論集 (22)、pp1-32、2019.3.31
- (2) 中野三敏『十八世紀の江戸文芸 — 雅と俗の成熟』中野三敏 岩波書店 2015年10月
- (3) 大島吉郎「『唐話纂要』の『常言』に関する幾つかの問題について」『中国言語文化学研究』第6号大東文化大学大学院中国言語文化専攻 (2017) pp57-59